

3. 計画調査

3-1. 自然条件

3-1-1. はじめに

東大雪地域は、大雪山国立公園の東部に位置し、ニペソツ山や石狩岳連峰の山々、広大な森林、糠平湖、溪谷等に恵まれた独自の自然景観を持つ地域である。高緯度に位置し、寒さの厳しい内陸性の寒冷地帯である。山麓部では広大な針広混交林が広がり、標高が高くなるに従って森林限界、ハイマツ帯へと推移し、山頂部では希少種や固有種が多数生育する高山植物群落が見られる。ナキウサギ等希少な動物も生息し、生物多様性の高い地域である。また、古くから温泉が知られ、森林開発の歴史を刻む鉄道橋梁等の歴史景観と樹林や湖等自然景観との対比が特徴的となっている。



三国峠からの眺望



ニペソツ山



糠平湖及びタウシュベツ川橋梁



十勝三股から石狩連峰を望む

3-1-2. 気候

東大雪地域は北海道でも最も寒さの厳しい内陸性の寒冷地に位置し、山頂部では夏季が約2ヶ月間と短く、紅葉も9月初旬頃から始まる。日照時間は全国的にみて多く、特に冬季の日照時間が多いことが特徴的である。

ぬかびら源泉郷の気温及び降水量等の平均値(昭和54年～平成12年)を表3-1及び図3-1に示す。ぬかびら源泉郷の平均気温データを見ると、年平均気温は3.5℃で、1～2月には最低気温-17℃以下、7～8月には最高気温20℃以上に達する。積雪は10～5月となっている。

表 3-1 ぬかびら源泉郷の月別平均気象データ(昭和54年～平成12年)

	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	平均風速 (m/s)	日照時間 (時間)	降雪の深さ 合計(cm)	積雪の深さ 最大(cm)
1月	50.7	-10.9	-4.9	-17.1	0.7	94.4	119	74
2月	32.7	-10.4	-4	-17.3	0.8	116	93	84
3月	59.8	-5.4	-0.1	-11.8	0.9	165.7	112	88
4月	98.6	2.1	7.6	-3.4	1	177.1	57	64
5月	123.2	8.4	14.5	2.1	1	185.7	14	5
6月	92.1	12.8	18.3	7.3	0.6	152.3	0	0
7月	119.8	16.5	21.3	12.3	0.4	138	0	0
8月	200.1	17.5	22.4	13.2	0.4	133.5	0	0
9月	195.8	12.5	18	7.5	0.4	118.4	0	0
10月	153.4	6.3	12.1	0.8	0.8	136.2	1	1
11月	94.9	-0.4	4.1	-4.8	1	98.7	44	17
12月	63.8	-6.9	-1.9	-12.1	0.8	85.5	110	46
年	1297.7	3.5	9	-1.9	0.7	1607	544	94

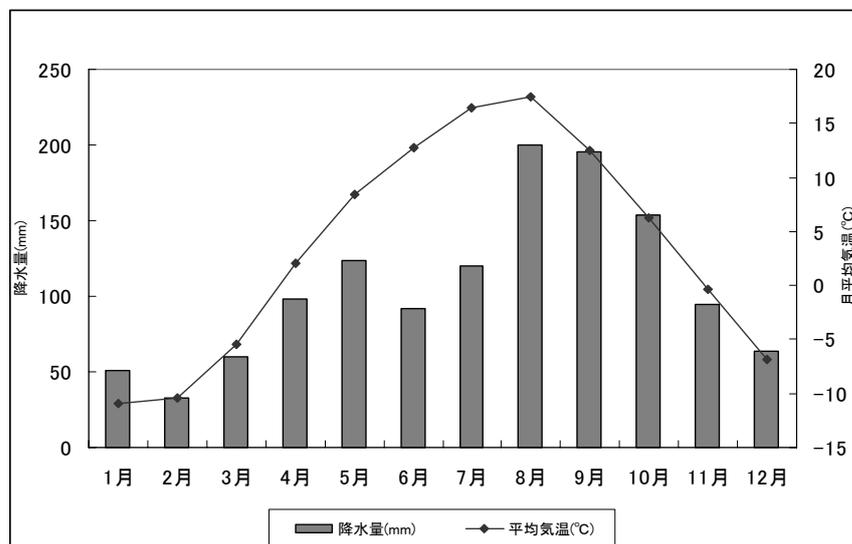


図 3-1 ぬかびら源泉郷の月別平均気温及び平均降水量

3-1-3. 地形・地質

大雪山は北海道の中央部に位置し、総面積 450 k m²に及ぶ大規模火山であり、大小 20 をこえる火山体の集合である。第四期火山群の表大雪に対し、東大雪は中生代に日高累層群の露出により形成された石狩岳、音更山、ユニ石狩岳等の石狩連峰、古い火山性山地であるウペペサンケ山やニペソツ山からなる。三股盆地に位置する十勝三股からはこれらの山々が一望できる。

糠平湖（人造湖）周辺には、古糠平湖の湖成層が分布し、この地層から、ウダイカンバ等の植物化石が採取されている。

少なくとも夏をはさむ二冬よりも長い期間、0℃以下の温度を保っている土壌・地層・岩石を永久凍土といい、大雪山の高山帯のほか十勝三股及び幌加にも分布している。

3-1-4. 植生

東大雪地域の山岳の山頂部は、真夏でも大きな雪渓や雪田が残り高山植物の宝庫となっている。標高が下がるにつれ、ハイマツ帯、森林限界へと推移し、山麓部にはトドマツ・エゾマツからなる針葉樹林、標高 400~600m 付近には針広混交林が広がる。また、東大雪地域の中央を音更川が流れており、河川周辺にはヤナギ類やハルニレ等からなる河畔林がみられる。

環境省で実施している自然環境保全基礎調査においては、ニペソツ山一帯や石狩岳からユニ石狩岳にかけての一帯は、「大雪山高山植物群落帯」として特定植物群落に選定されている。このほか、「十勝三股の湿性植物群落」「十勝幌加のベニバナヤマシヤクヤク群落」が特定植物群落に選定されている。

ぬかびら源泉郷地区周辺の植生図を図 3-2 に示す。ぬかびら源泉郷地区周辺の植生は、自然植生であるエゾマツ・トドマツ群集、下部針広混交林と、代償植生であるヤマハンノキ群落及び牧草地で構成されている。



図 3-2 植生図 (ぬかびら源泉郷地区周辺)

現地調査(22年8月)により作成した十勝三股地区の植生図を図3-3に示す。トドマツ林、針広混交林が広い面積を占めており、川沿いにはハルニレヤナギ林からなる河畔林が帯状に分布する。また、所管地の住居等の跡地は主に低茎草本地になっている。

平成8年に作成された植生図と比較すると、大きな変化は認められないものの、一部でシラカンバ等の成長に伴う樹林化が見られる。この他、宅地等の跡地に分布する低茎草本地には、シラカンバ、オノエヤナギ、トドマツ、カラムツ等、木本の稚樹の生育が確認された。

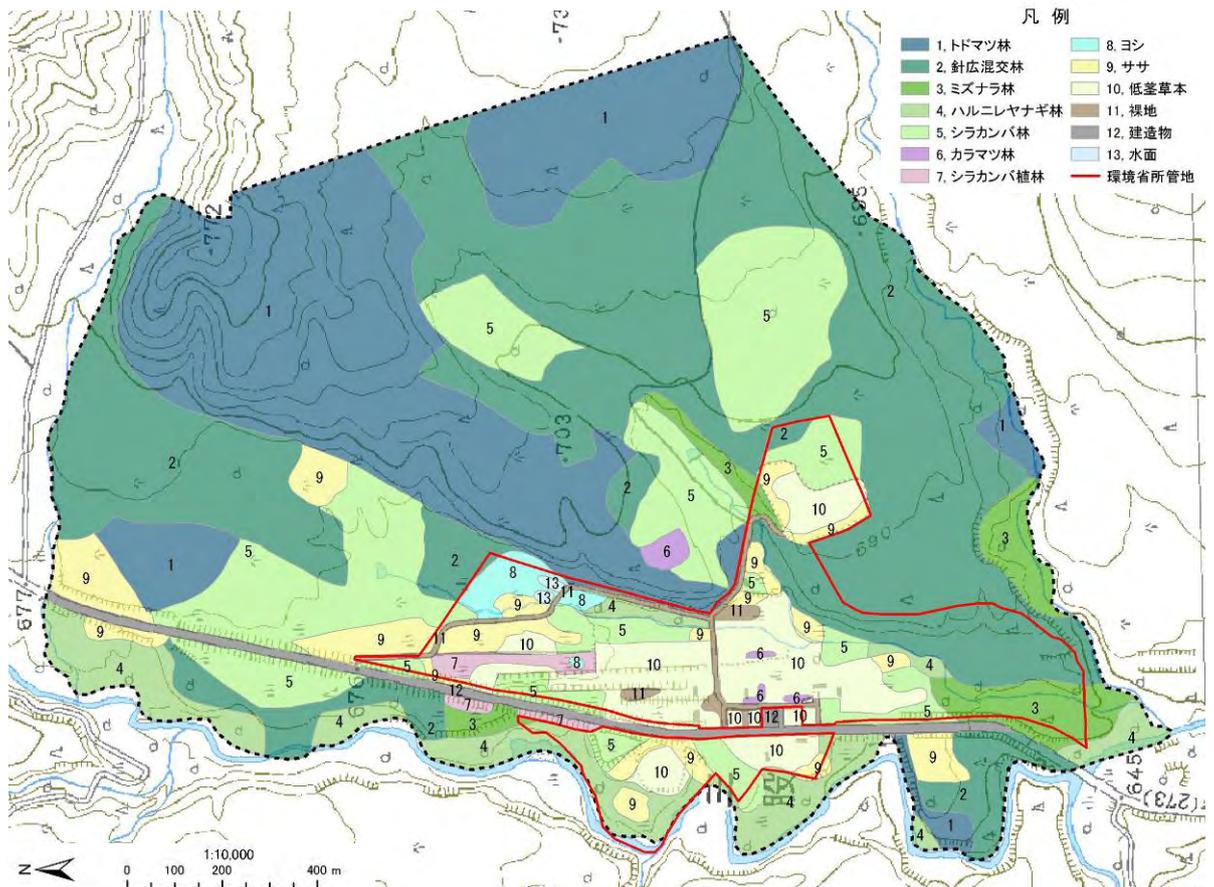


図3-3 植生図（十勝三股地区）

3-1-5. 植物

東大雪地域には北海道でも有数の高山が含まれ、地域の特徴ともなっている。東大雪地域の山岳は本州の 3,000m 級の山々に匹敵する高山環境を持ち、山頂部では真夏でも大きな雪渓や雪田が残り高山植物の宝庫となっている。東大雪地域に生育する高山植物の一部を図 3-4 に示す。

 <p>コマクサ(ケシ科) 高山の礫地に生える</p>	 <p>ウメバチソウ(ユキノシタ科) 低地～亜高山の湿地に生える</p>	 <p>イワヒゲ(ツツジ科) 高山の湿った礫地や岩地に生える</p>
 <p>ミネズオウ(ツツジ科) 高山の礫地に生える</p>	 <p>エゾノツガザクラ(ツツジ科) 高地の雪田縁や草地、礫地に生える</p>	 <p>エゾルリソウ(ムラサキ科) 高山の礫地や浅い草地に生える</p>

図 3-4 東大雪地域の高山植物

ぬかびら源泉郷地区は市街地となっているが湖畔園地、八千代の沢川周辺はエゾマツ、トドマツ、ケヤマハンノキ等の樹林地となっている。国道沿い等にはルピナス等の外来植物が確認されている。

十勝三股地区ではカラフトノダイオウやエゾナミキソウ、バイカモ等の希少な植物が確認されているが、過去に住宅等として利用され現在草地となっている箇所には外来種が確認されている。現地調査（平成 22 年 8 月）において確認された外来種を表 3-2 に示す。なお、表には「ひがし大雪自然誌研究－希少植物・高山植物・帰化植物－」（平成 11 年）に記録されている確認状況も合わせて記載した。

表 3-2 十勝三股で確認された外来種一覧

科名	和名	選定基準				確認年代 (文献より)	確認状況		
		外来法	道 ブルー	ブルー 2010	生態学会		1999 (文献)	2010(現地調査)	
								確認	分布状況
マツ科	カラマツ		国内A	B			○	低葦草地に点在	
タデ科	ソバカズラ		国外A	B	●	1910 年以前	○		
タデ科	ハイミチヤナギ		国外A	A3	●	1964 年以前	○	道路上に分布	
タデ科	ヒメスイバ		国外A	A3	●	1884 年以前	○		
タデ科	エゾギンギン	要注意2	国外A	A3	●	1909 年以前	○		
ナデシコ科	オランダミミナグサ		国外A	B	●	明治末期	○		
ナデシコ科	ムシトリナデシコ		国外A	A3	●	江戸時代	○		
ナデシコ科	マツヨイセンノウ		国外A	A3	●	明治	○	低葦草地に点在	
ナデシコ科	ウスベニツメクサ		国外A	B	●	1915 年以前	○		
ナデシコ科	カラフトホソバハコベ		国外A	A3	●	1964 年	○	低葦草地に点在	
アカザ科	シロザ		国外A	B			○		
アブラナ科	セイヨウワサビ		国外A	A3	●	明治	○		
アブラナ科	ハルザキヤマガラシ	要注意2	国外A	A3	●	日本100	○		
アブラナ科	キレハイスガラシ		国外A	A3	●	1963 年	○		
マメ科	ルピナス		国外A	A3	●		○	低葦草地及び林道沿いに広く分布	
マメ科	タチオランダゲンゲ		国外A	A3	●	明治	○		
マメ科	ムラサキツメクサ		国外A	A2	●	1868 年前後	○	低葦草地及び林道沿いに広く分布	
マメ科	シロツメクサ		国外A	A2	●	江戸時代	○		
アカバナ科	メマツヨイグサ	要注意2	国外A	A3	●	明治	○	低葦草地に点在	
アカネ科	トゲナシムグラ		国外A	A3	●	1974 年	○	低葦草地に点在	
ムラサキ科	ワスレナグサ		国外A	A3			○		
ムラサキ科	ヒレハリソウ		国外A	A3	●	明治	○		
ゴマノハグサ科	ホソバウンラン		国外A	A3	●	明治	○	旧道、木道脇にややまとまって生育	
ゴマノハグサ科	ヒロードモウスイカ		国外A	A3	●	明治	○	木道脇に1箇所生育	
オオバコ科	オオバコ		不明A				○	旧道、林道沿いに分布	
オオバコ科	ヘラオオバコ	要注意2	国外A	A2	●	江戸時代末期	○		
キク科	セイウタンポポ		国外A	A2			○	低葦草地及び林道沿いに点在	
キク科	エゾフキツネアザミ		不明A				○	低葦草地に点在	
キク科	セイヨウノコギリソウ		国外A	A3	●	1887 年	○	低葦草地及び林道沿いにややまとまって分布	
キク科	アメリカオニアザミ	要注意2	国外A	A2	●	1960 年以前	○	低葦草地に点在	
キク科	ヒメムカシヨモギ	要注意2	国外A	A3	●	1870 年頃	○		
キク科	コウリンタンポポ		国外A	A2	●	明治	○	低葦草地及び林道沿いに広く分布	
キク科	キバナコウリンタンポポ		国外A	A2	●		○		
キク科	ブタナ	要注意2	国外A	A2	●	1933 年	○		
キク科	フランスギク		国外A	A2	●	江戸時代末期	○	低葦草地及び林道沿いにややまとまって分布	
キク科	アラゲハンゴンソウ		国外A	B	●	1938 年以前	○	低葦草地に点在	
キク科	オオアワダチソウ	要注意2	国外A	A2	●	日本100	○		
キク科	ヒメジョオン	要注意2	国外A	A3	●	日本100	○	低葦草地及び林道沿いに広く分布	
アヤメ科	ニワゼキショウ		国外E	D	●	1887 年頃	○		
イグサ科	クサイ		不明A				○	やや温性な低葦草地に点在	
イネ科	コヌカグサ		国外A	A3	●	江戸時代末期	○	低葦草地及び林道沿いに広く分布	
イネ科	ハルガヤ		国外A	A3	●	明治	○		
イネ科	カラスノチャヒキ		国外A	B	●	1916 年	○	低葦草地に点在	
イネ科	カモガヤ	要注意3	国外A	A3	●	日本100	○	低葦草地及び林道沿いに広く分布	
イネ科	シバムギ	要注意3	国外A	A3	●	明治	○		
イネ科	オニウシノケグサ	要注意3	国外A	A3	●	日本100	○	低葦草地及び林道沿いに広く分布	
イネ科	ネズミムギ	要注意3	国外A	A3	●	明治	○	低葦草地に点在	
イネ科	ホソムギ	要注意3	国外A	A3	●	明治	○		
イネ科	オオアワガエリ	要注意3	国外A	A3	●	明治	○	低葦草地及び林道沿いに広く分布	
イネ科	ナガハグサ		国外A	A3	●	明治初期	○	低葦草地及び林道沿いに広く分布	

■選定基準

- 【外来法】 法律名：特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成十六年六月二日法律第七十八号）
- 【要注意2】 被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物
- 【要注意3】 別途総合的な検討を進める緑化植物
- 【道ブルー】 文献名：『北海道の外来種リスト-北海道ブルーリスト-』（2004年3月）
- 【国外A】 国外外来種のうち、本道に導入されており、本道に定着でき、本道に定着しており、影響等が報告あるいは懸念されている種。
- 【国外E】 国外外来種のうち、本道に導入されており、本道に定着でき、本道に定着していない可能性が高いとされているが、影響が懸念されている種。
- 【国内A】 国内外来種のうち、本道に導入されており、本道に定着でき、本道に定着しており、影響等が報告あるいは懸念されている種。
- 【不明A】 国外、国内の区分が不明の外来種のうち、本道に導入されており、本道に定着でき、本道に定着しており、影響等が報告あるいは懸念されている種。
- 【ブルー2010】 文献名：『北海道の外来種リスト-北海道ブルーリスト 2010-』（2010年6月）
- A2 本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種
- A3 本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている外来種
- B 本道に導入されており、本道に定着でき、本道に定着しているが、影響等が報告あるいは懸念されていない種。
- D 本道に導入されており、本道に定着できる可能性があるが、本道への定着は不明またははっきりせず、影響等が報告されていない種。
- 【生態学会】 文献名：『外来種ハンドブック』日本生態学会編 村上興正、鷲谷いづみ監修 2002年 築地書館
- 『外来種ハンドブック』日本生態学会編の外来種リスト掲載種
- 日本100 日本の侵略的外来種ワースト100掲載種

■確認年代

- 【確認年代】 文献名：『外来種ハンドブック』日本生態学会編 村上興正、鷲谷いづみ監修 2002年 築地書館
- 『外来種ハンドブック』に掲載されている確認年代

■確認状況

- 【1999文献】 文献名：『ひがし大雪山自然誌研究 -希少植物・高山植物・帰化植物-』さっぽろ自然調査館 1999年
- 掲載種

3-1-6. 動物

豊かな植生と冬の厳しい寒さに特徴付けられる東大雪には、さまざまな野生動物が生息しており、クマガイ等の希少な鳥類をはじめ、氷河時代の生き残りといわれるナキウサギ、地域特有の高山蝶であるウスバキチョウ、アサヒヒョウモン、またヒグマ、エゾシカ等の大型哺乳類の生息地となっている。魚類ではヤマメ、オショロコマ等冷水を好む種が生息している。

東大雪地域で生息が確認されている動物の例を図 3-5 に示す。



図 3-5 東大雪地域の動物

ぬかびら源泉郷地区の多くは市街地となっているが、中央園地や湖畔園地、八千代の沢川河畔の樹林ではオオアカゲラ、キビタキ、シジュウカラ等の鳥類や、道路沿い等の法面等の草地ではエゾシカがみられる。

十勝三股地区の現地調査では、広い範囲でエゾシカの足跡や糞、食痕等の痕跡が確認されており、木道沿いの2箇所ヒグマの採餌痕が確認された。その他、エゾサンショウウオ、ニホンザリガニも確認された。

3-2. 人文・社会条件

3-2-1. 歴史

音更川流域沿いにアイヌの人家が点在していた東大雪地域では、明治 20 年代後半に囚人労働による開発が着手された。明治 26 年には現在の三の沢地点に囚人の造材宿舎や看守宿舎などが設置され、伐採された樹木は音更川を流送して十勝平野に運ばれた。後の上士幌開拓者入植や糠平温泉開発のさきがけとなった。和人開拓者の入植が始まったのは明治 40 年からである。音更川流送は昭和 16 年まで続けられた。

大正 8 年にヌカヒラ温泉（後に糠平温泉と改称）が発見、その後温泉街が形成され、造材業者や湯治客で賑わいを見せる。

昭和 11 年に北海道を襲った大台風による被害が翌年から明らかになり、幌加や十勝三股の風倒木処理が盛んとなる。さらには昭和 29 年の洞爺丸台風による風倒木処理のため、造材が盛んに行われた十勝三股には約 1500 人が住んだとされている。

交通においては昭和 14 年に帯広から十勝三股までを結ぶ国鉄士幌線が開通したが、トラック輸送への転換に加え林業衰退により利用者が激減し、昭和 53 年のバス代行を経て昭和 62 年に廃線となった。現在は昭和 33 年に廃止となった音更森林鉄道の木造修理庫が現存している。昭和 47 年に三国峠が開通して上士幌町と上川町が国道 273 号で結ばれた。

また、昭和 28 年に糠平電源開発工事開始、昭和 30 年に糠平ダムが完成し、糠平湖が誕生した。湖の誕生で温泉街は観光地として注目された。

平成 21 年には、温泉地区の字名が「糠平」から「ぬかびら源泉郷」と変更された。

3-2-2. 文化

学術的な評価の高い永久凍土や噴泉塔群のほか、産業の歴史を伝える橋梁や石碑等が文化財に指定されている。東大雪地域の文化財を表 3-3 に、位置を図 3-6 に示す。

なお、タウシュベツ川橋梁等が旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群として第 1 回北海道遺産(平成 13 年)に指定されている。

表 3-3 東大雪地域の文化財

指定区分	名称	所有者	登録・指定年月日
町指定文化財	丸山噴泉塔群	国	昭和 60 年 8 月 1 日
	三股永久凍土	国	昭和 60 年 8 月 1 日
	「音更山道」碑	上士幌町	平成 9 年 6 月 13 日
町登録文化財 (有形文化財)	水神碑	十勝西部森林管理署 大雪支署	平成 22 年 1 月 25 日
国指定登録有形文 化財	旧国鉄士幌線 勇川橋梁	上士幌町	平成 11 年 8 月 23 日
	旧国鉄士幌線 第三音更川橋梁	上士幌町	平成 11 年 8 月 23 日
	旧国鉄士幌線 第五音更川橋梁	上士幌町	平成 11 年 8 月 23 日
	旧国鉄士幌線 十三の沢橋梁	上士幌町	平成 11 年 8 月 23 日
	旧国鉄士幌線 第六音更川橋梁	上士幌町	平成 15 年 1 月 31 日
	旧国鉄士幌線 音更トンネル	上士幌町	平成 15 年 1 月 31 日

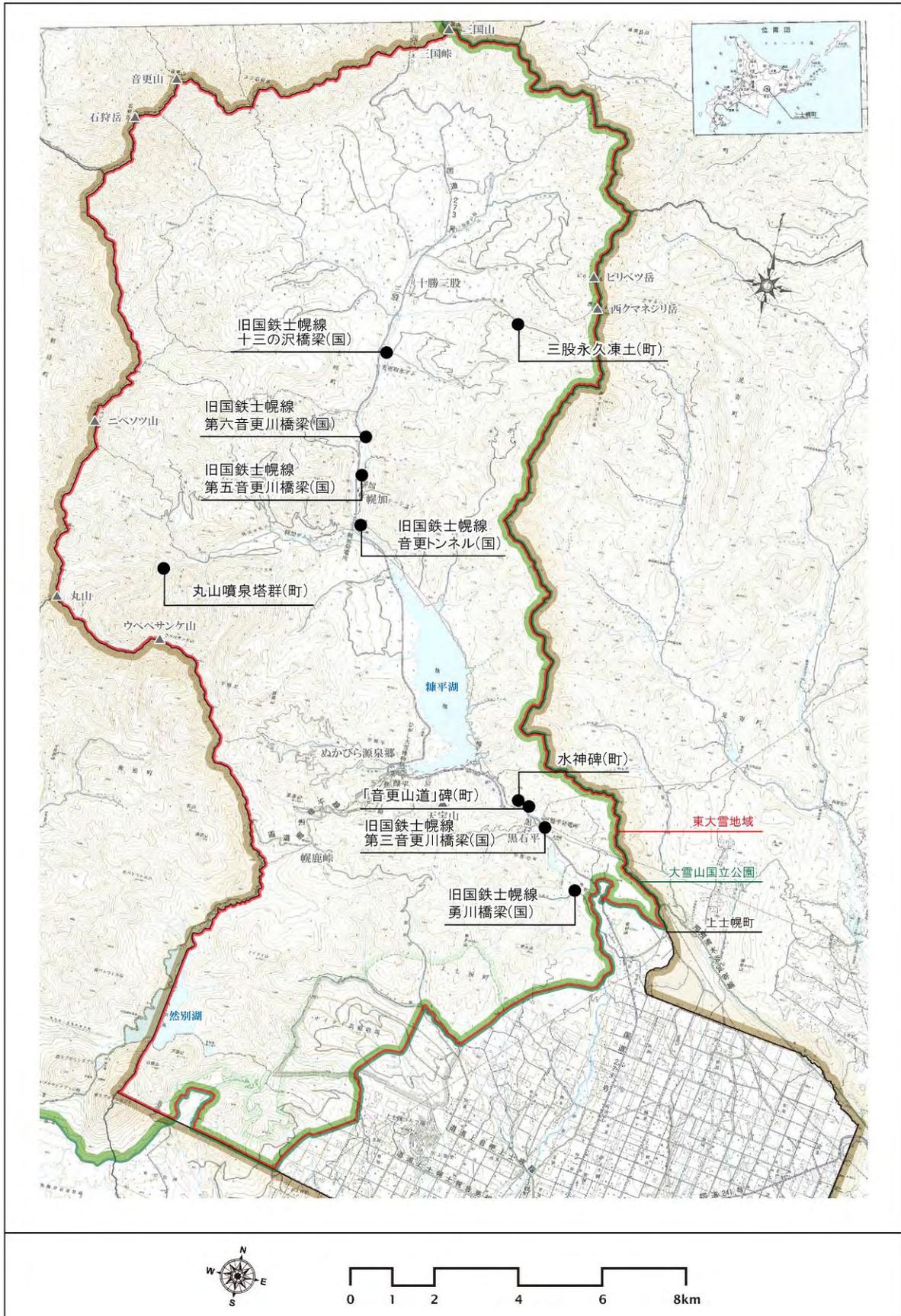


図 3-6 東大雪地域の文化財

3-2-3. 人口

上士幌町の人口について以下に整理する。上士幌町の人口は、平成 22 年 12 月現在 5188 人、世帯数は 2348 世帯となっており、人口は減少傾向にあるが、世帯数は増加している。

また、総人口に対して 65 歳以上の高齢者の占める割合は、平成 17 年度時点で 30.1%、外国人が占める割合は 0.1%となっている。

上士幌町の人口と世帯数を図 3-7 に示す。

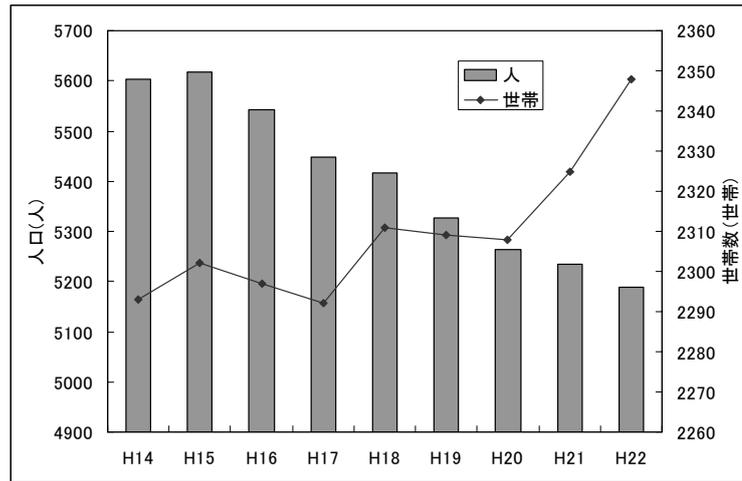


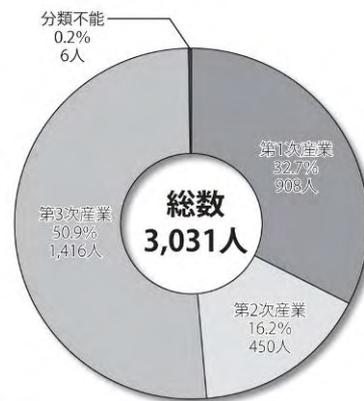
図 3-7 上士幌町の人口及び世帯数

3-2-4. 産業

上士幌町の産業別就業人口を図 3-8 に示す。第 1 次から第 3 次の産業別で最も多いのは、第 3 次産業の 50.9%でそのうちサービス業が 22.3%となっている。また、第 1 次産業は 32.7%を占めており、畜産と畑作を主体とする農業が基幹となっている。ぬかびら源泉郷や幌加では、温泉等を活用した観光が中心となっている。

■産業別就業人口 (15歳以上) (単位：人)

区分	男	女	計	比率
農業	442	356	798	28.7%
林業	94	16	110	4.0%
漁業	0	0	0	0.0%
第 1 次産業計	536	372	908	32.7%
鉱業	8	3	11	0.4%
建設業	213	56	269	9.7%
製造業	90	80	170	6.1%
第 2 次産業計	311	139	450	16.2%
電気・ガス・熱供給業・水道業	18	2	20	0.7%
運輸・通信業	73	17	90	3.2%
卸売・小売業・飲食店	203	288	491	17.7%
金融・保険業	16	16	32	1.2%
不動産業	4	0	4	0.1%
サービス業	280	339	619	22.3%
公務	121	39	160	5.8%
第 3 次産業計	715	701	1,416	50.9%
分類不能の産業	2	4	6	0.2%
合計	1,564	1,216	2,780	100%



資料：国勢調査（平成17年）

図 3-8 上士幌町の産業別就業人口

3-2-5. 社会条件

東大雪地域のうち、ぬかびら源泉郷地区と十勝三股地区の土地所有状況、権利制限関係、既存施設等について以下に整理する。

(1) 土地所有状況

ぬかびら源泉郷地区の土地所有状況を図 3-9 に示す。

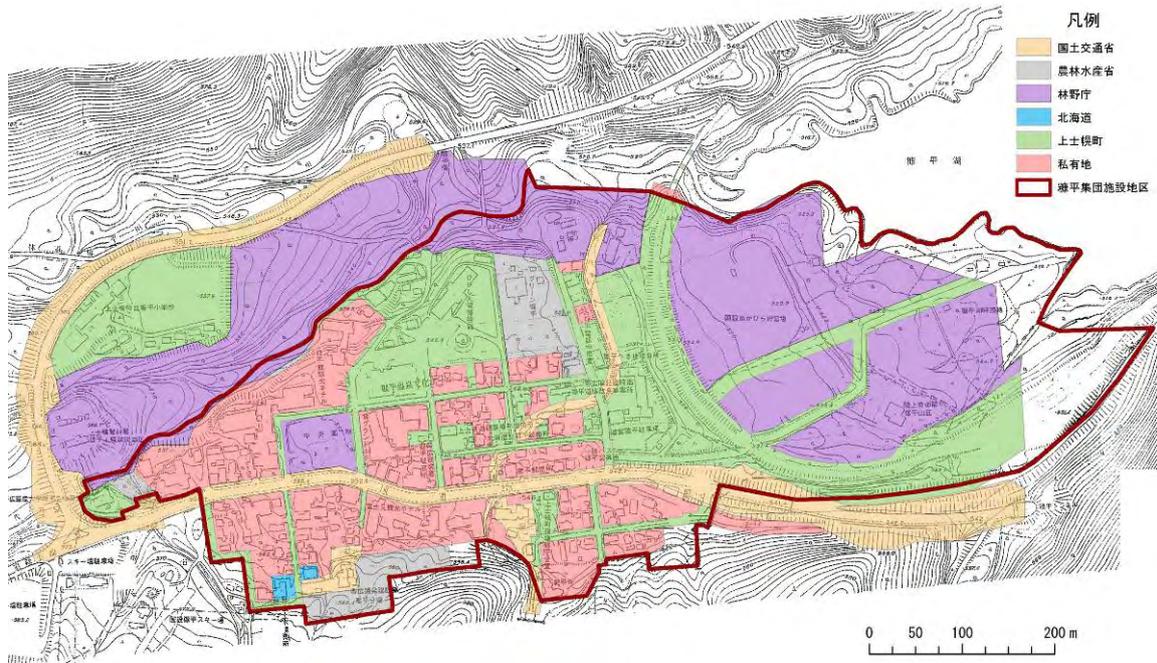


図 3-9 土地所有状況（ぬかびら源泉郷地区）

十勝三股地区の土地所有状況を図 3-10 に示す。

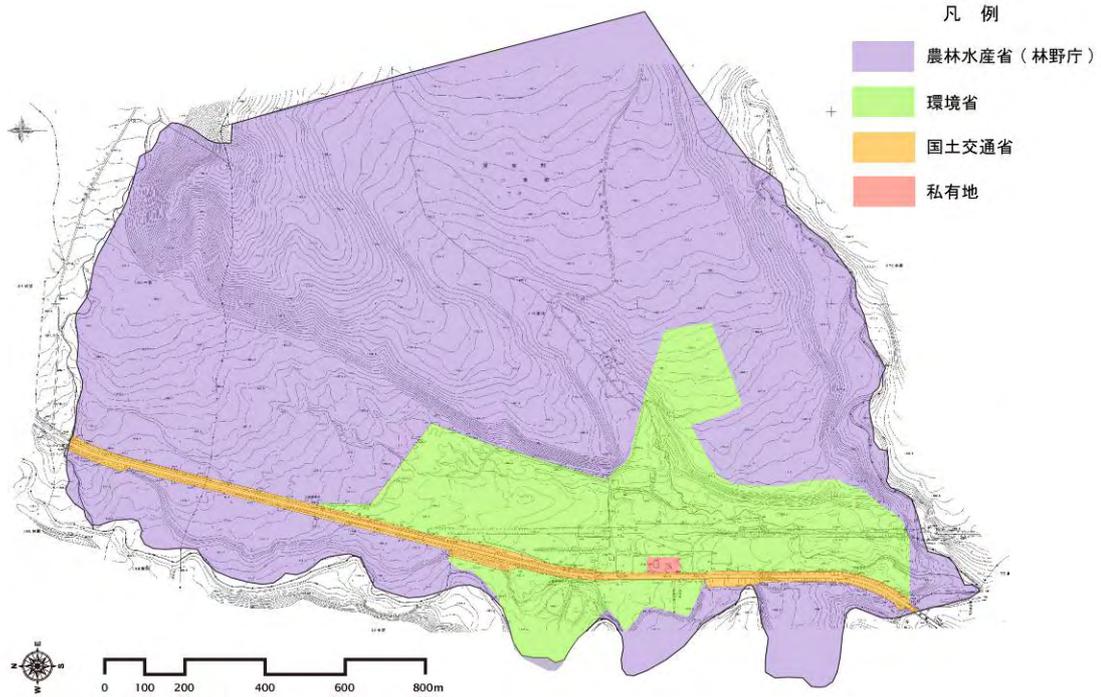


図 3-10 土地所有状況(十勝三股地区)

(2) 権利制限関係

ぬかびら源泉郷地区の権利制限関係を図 3-11 に示す。ぬかびら源泉郷地区は国立公園第 2 種特別地域に指定されている。

駅の沢川、寺の沢川、スキー場の沢川、左の沢川、八千代の沢川、二の沢川は土石流危険溪流に指定されており、寺の沢川は砂防指定地に指定されている。

保安林及び都市計画区域は指定されていない。また、鳥獣保護区(道指定)が隣接する。

糠平湖内水面漁業権は上士幌町が、糠平湖の水利権は電源開発株式会社が有する。

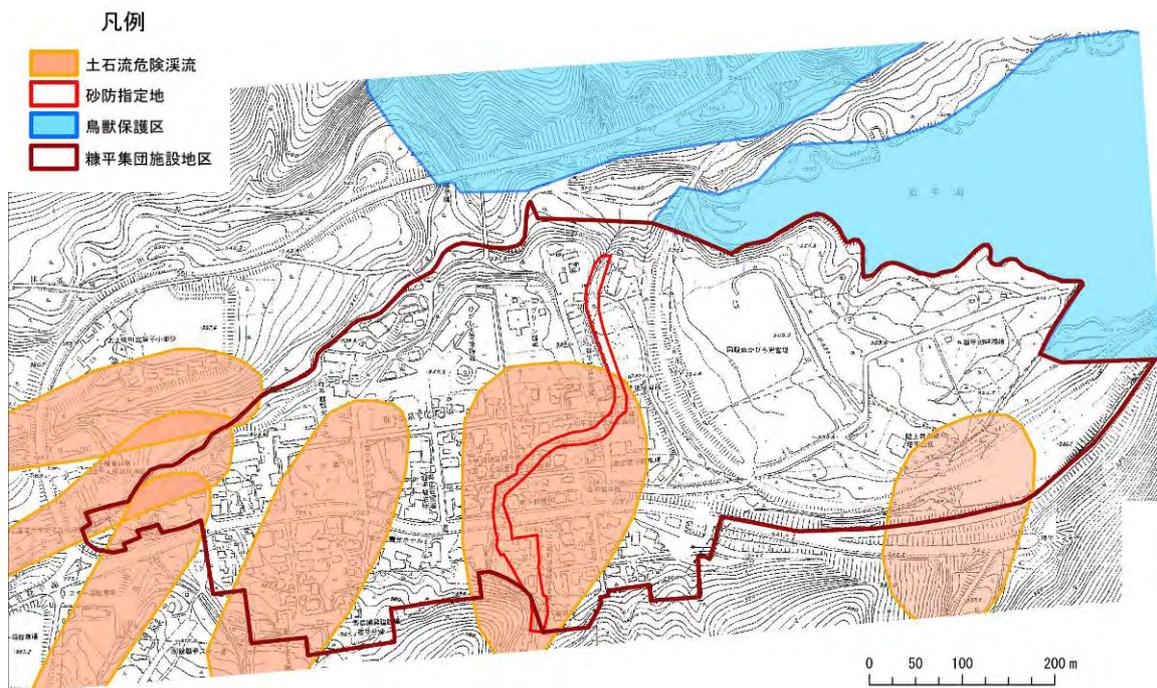


図 3-11 権利制限関係（ぬかびら源泉郷地区）

十勝三股地区の権利制限関係を図 3-12 に示す。十勝三股地区（環境省所管地）は国立公園第 2 種特別地域に指定されており、砂防指定地や都市計画区域、保安林は指定されていない。環境省所管地周辺の一部は保安林に指定されている。

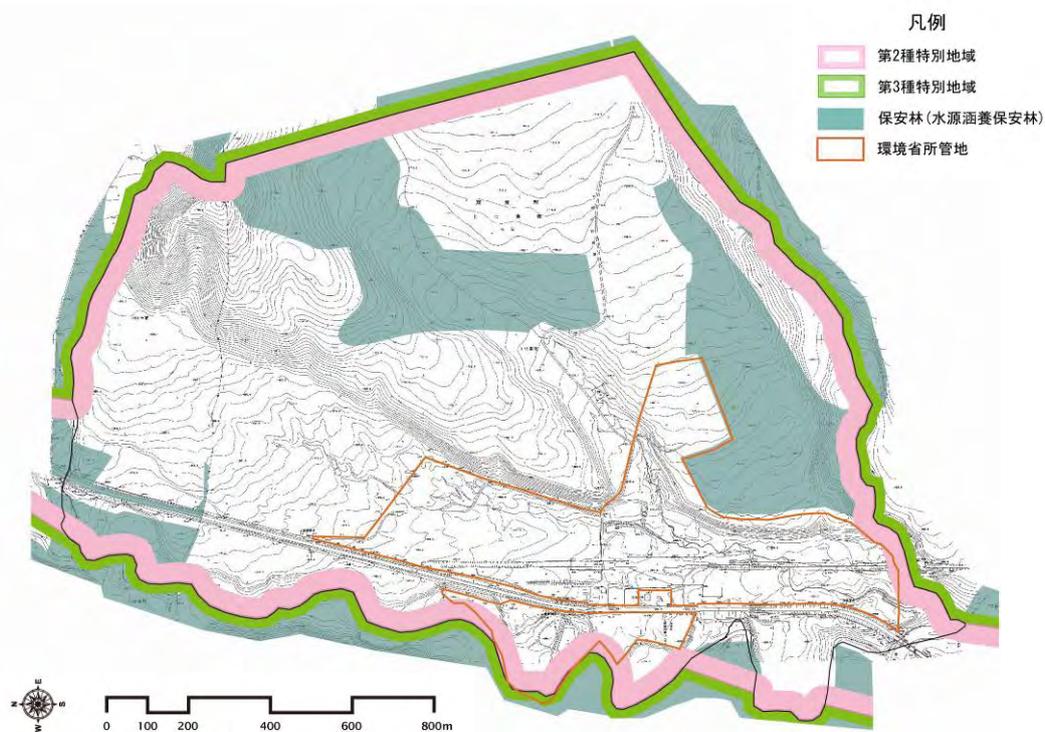


図 3-12 権利制限関係（十勝三股地区）

(3) 既存施設

ぬかびら源泉郷地区の水道施設の状況を図 3-13 に示す。下水道は整備されていない。電気は北海道電力株式会社、電話は東日本電信電話株式会社 (NTT) が整備しており、ガスはプロパンガスとなっている。

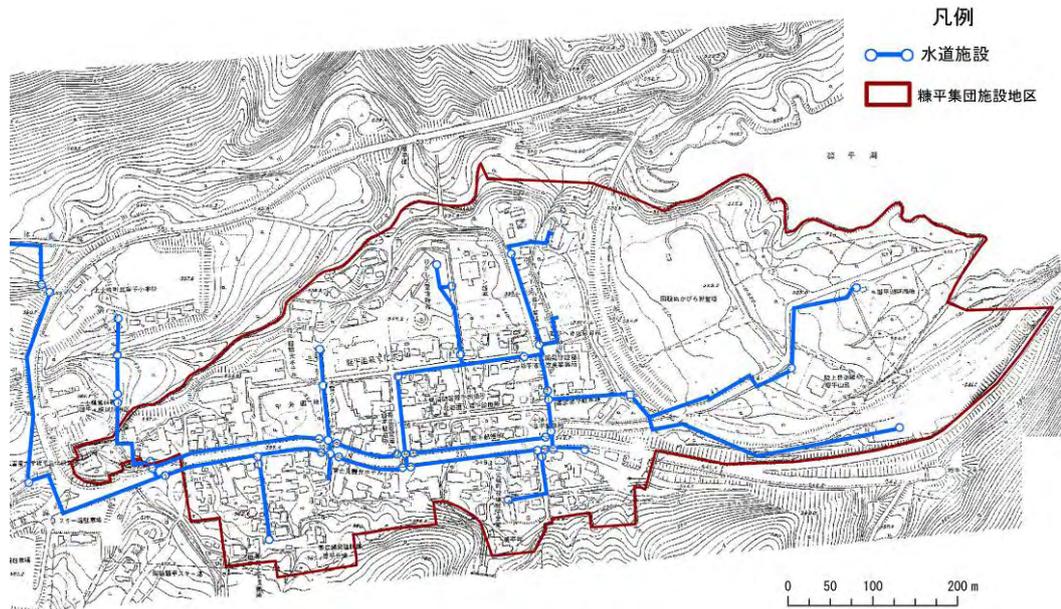


図 3-13 水道施設 (ぬかびら源泉郷地区)

十勝三股地区の水道施設の状況を図 3-14 に示す。上水道の管理は地域管理となっており、下水道は整備されていない。電気、電話は整備されており、ガスはプロパンガスとなっている。

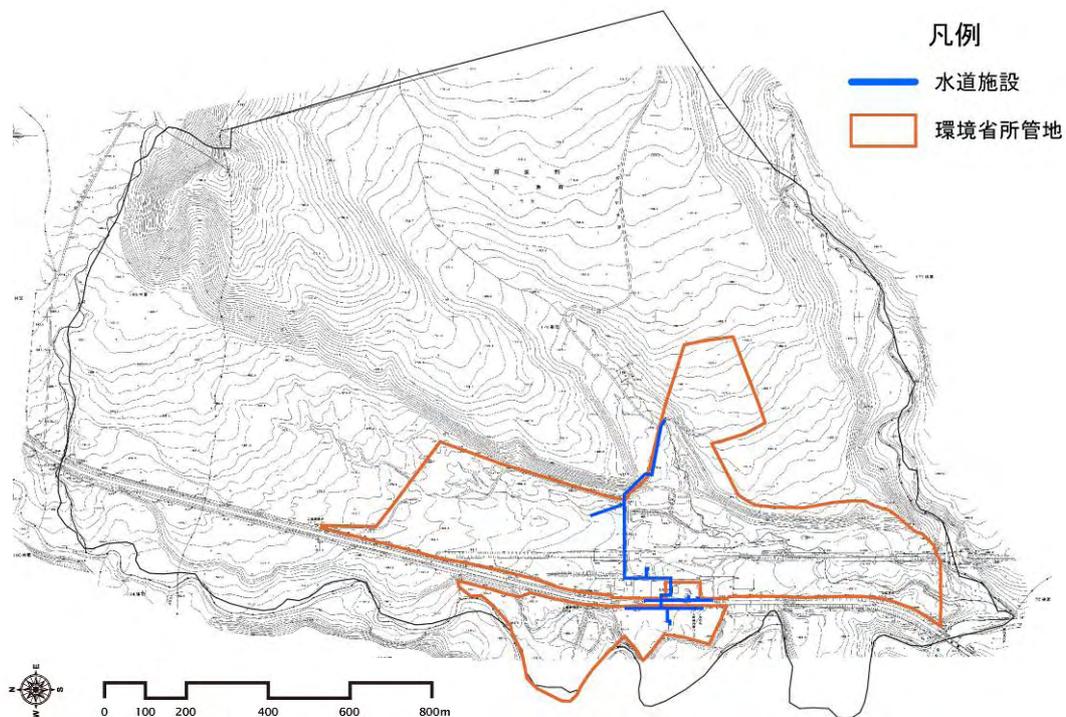


図 3-14 水道施設 (十勝三股地区)

3-3. 公園利用状況及び利用施設の概況

3-3-1. 観光資源等

東大雪地域は豊かな自然環境に恵まれ、また各地に歴史資源が残る地域である。温泉の他、スキー場や、登山道、散策路等のレクリエーション施設、自然や歴史を紹介する博物館や資料館等の施設がある。東大雪地域の主な観光資源等について表 3-4 に示す。

表 3-4 主な観光資源等

三国山	標高 1541m。
音更山	標高 1932m。登山道 2 コースあり。
石狩岳	標高 1967m。石狩川の源流にそびえ、十勝三股から屏風のような山並みが見える。登山道 2 コースあり。
ピリベツ岳	標高 1602m。十勝三股からの眺めから通称「オッパイ山」と呼ばれている二つの山の北側がピリベツ岳。
西クマネシリ岳	標高 1635m。十勝三股からの眺めから通称「オッパイ山」と呼ばれている二つの山の南側が西クマネシリ岳。
ニベツ山	標高 2013m。東大雪地域の最高峰。山頂からウペペサンケ山、石狩岳、トムラウシ山等が見られる。登山道 2 コースあり。
丸山	標高 1692m。
ウペペサンケ山	標高 1848m。 2km の長い頂上を持つ雄大な稜線が特徴的な山。登山道あり。
糠平湖	人造のダム湖で、アウトドアのスポットとして知られる。釣り、湖畔ではサイクリングや森林浴が楽しめる。
タウシュベツ川橋梁を含むコンクリートアーチ橋群	タウシュベツ川橋梁を含む旧国鉄士幌線のコンクリートアーチ橋群は「北海道遺産」に選定され、自然に溶け込んだ美しい姿を見せる。
三国峠(三国峠パーキング)	北海道の国道の中で一番標高の高い峠(標高 1139m)。で、緑深い夏の大樹海、秋の紅葉が魅力。
三股(十勝三股)	かつて木材産業で栄えた集落跡に広がる草地から、東大雪の山々を眺望できる。
幌加温泉	森の中に静かにたたずむ、森林浴と温泉浴に浸れる秘境の温泉。
ぬかびら源泉郷	全国でも珍しく、地域内にある全ての温泉が源泉かけ流しの宿。
ナイタイ高原牧場	日本一広い高原牧場。十勝平野を一望できる。
北海道自然歩道(東大雪の道)	鉄道資料館からメトセツまでの 8km、旧幌加駅から第五音更川橋梁の往復 700m の鉄道廃線跡が散策路となっており、森林浴や紅葉が楽しめる。
糠平湖展望台	糠平ダムのすぐ脇に設けられた展望台で、糠平湖の眺望を楽しめる。
森のトロッコエコレール	廃線となった鉄道を利用した木製軌道トロッコ。冬季も営業。
ひがし大雪高原鉄道	旧国鉄士幌線の鉄道を再現した往復 1,300m の足こぎトロッコ。
ぬかびら源泉郷スキー場	エゾマツ、トドマツの間をぬって滑る、全長 4.3km の林間コースが人気のスキー場。
ぬかびらキャンプ場	糠平湖畔に近く、自然豊かな場所のキャンプ場。
ひがし大雪博物館	大雪山国立公園を中心とした地域の自然を標本やパネルで展示するほか、熱帯地域を中心とした世界の昆虫類の標本も展示。
鉄道資料館	昭和 62 年に廃止された旧国鉄士幌線の歴史資料が豊富な資料館。

※北十勝四町広域観光振興連絡協議会パンフレット「来て見てきたとかち」、
上士幌観光協会パンフレット「大雪山国立公園かみしほろ」
及び上士幌観光協会 HP 等より作成

3-3-2. 利用動線

東大雪地域への主要なアクセス道は、旭川方面と北見方面を結ぶ国道 39 号線や足寄方面と帯広方面を結ぶ国道 241 号線と接続し、東大雪地域を南北に結ぶ国道 273 号線である。また、鹿追、然別湖方面とぬかびら源泉郷は道道 85 号鹿追糠平線で結ばれている。なお、国道 273 号線は通年開通しているが、道道 85 号線は冬季閉鎖される。

東大雪地域では、この国道 273 号線沿線に、三国峠、十勝三股、ぬかびら源泉郷などがある。さらに国道 273 号から幌加温泉への連絡路線として、町道幌加線が整備されている。ぬかびら源泉郷内には鉄道資料館、糠平ダム園地への連絡線路として、町道糠平線(旧国道 273 号線)が整備されている。

これら車道等を経由して、登山に利用されている山岳は、ニペソツ山、ウペペサンケ山、ユニ石狩岳、音更山、石狩岳等がある

また、清水谷からぬかびら源泉郷を経て糠平湖畔のメトセップに至る鉄道跡地では、一部区間でトロッコ利用も行われている。

図 3-15 に東大雪地域の主な観光資源等及び利用動線を示す。

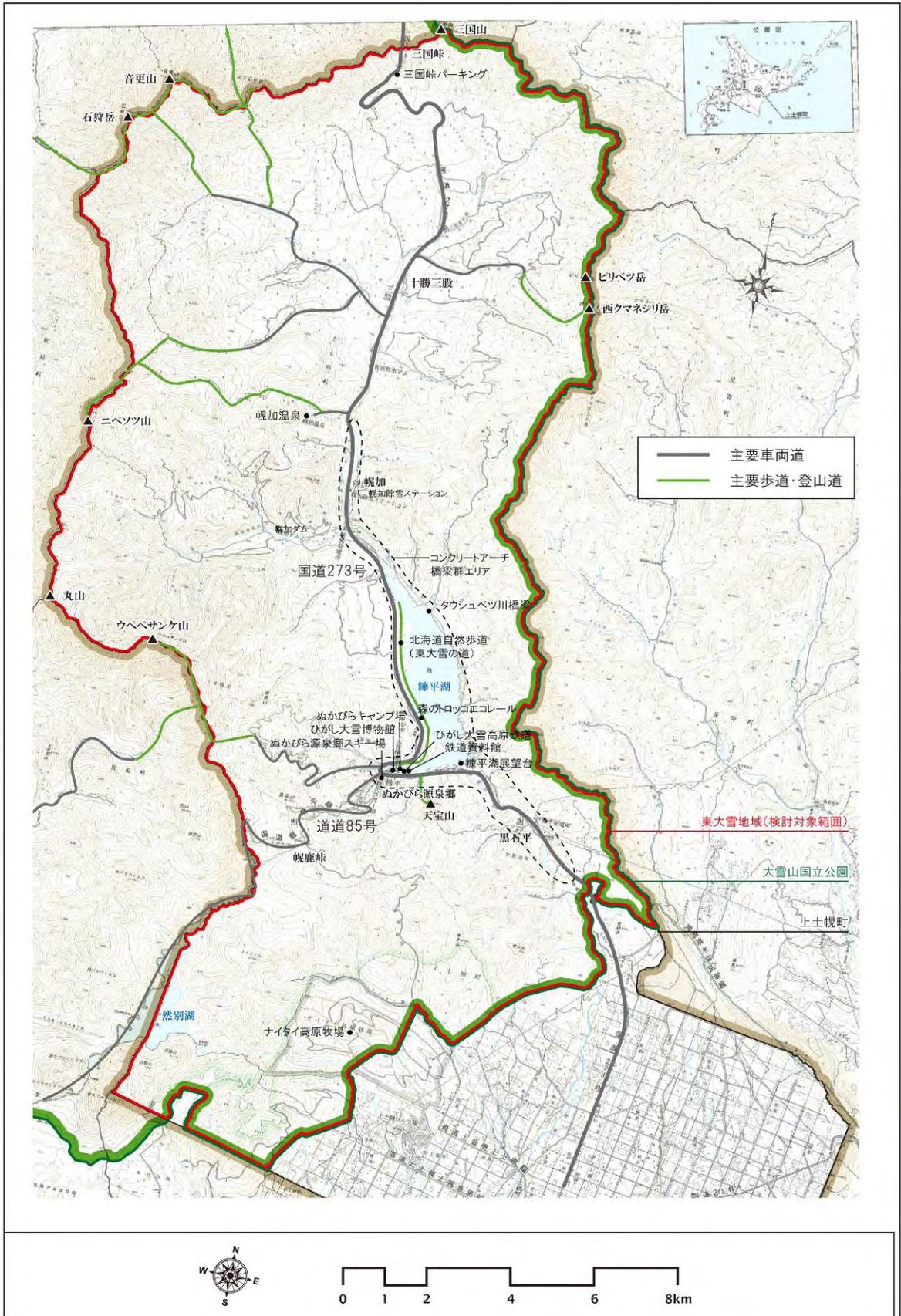


図 3-15 東大雪地域の主な観光資源等及び利用動線

3-3-3. 利用者

(1) 観光入込総数

東大雪地域（上士幌町）の観光入込総数の推移を図 3-16 に示す。平成 10 年度から平成 17 年度は減少しており、平成 18 年、19 年は増加しているものの、平成 20 年度は再び減少に転じている。

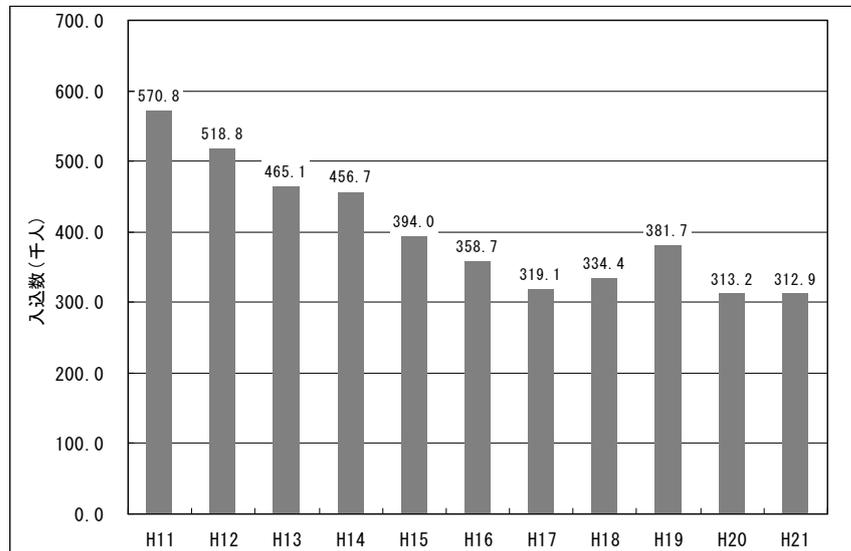


図 3-16 上士幌町観光入込総数の推移

(2) 月別観光客入込総数

月別観光入込総数を図 3-17 に示す。6 月から急激に上昇し、8 月にピークに達し、紅葉のある 10 月は 3 万人程度の入込となる。スキーシーズンの始まる 12 月以降は再び増加に転じている。

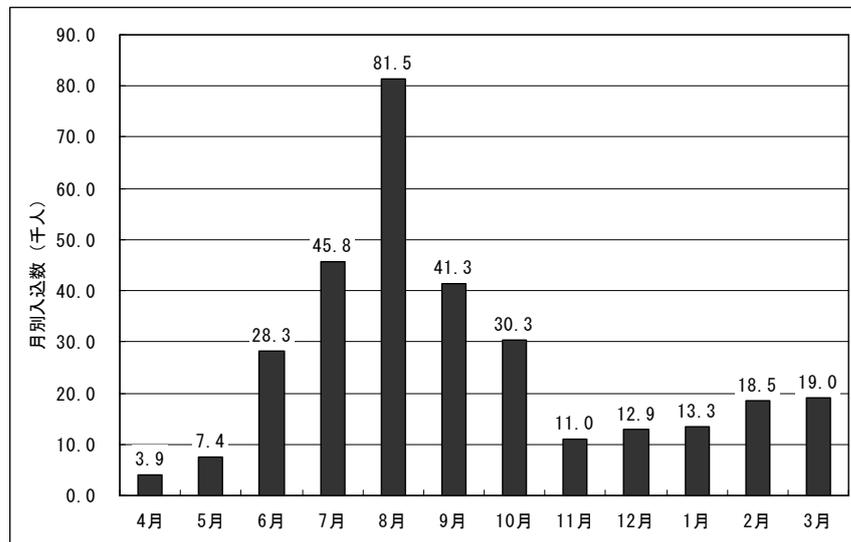


図 3-17 上士幌町月別観光入込総数(平成 20 年)

(3) 観光客層

道内・道外客数、日帰り・宿泊客数の推移及び国・地域別外国人宿泊者数を図 3-18～20 に示す。客年とも道外客が多数を占めているが、近年道内客の現象に比べ、道外客はほぼ一定となっている。また、日帰り客が多く、年々その割合が増加している。

外国人宿泊者は入込総数に対する割合は少ない。国別にみると、韓国、台湾、中国等東アジアが9割以上を占めている。

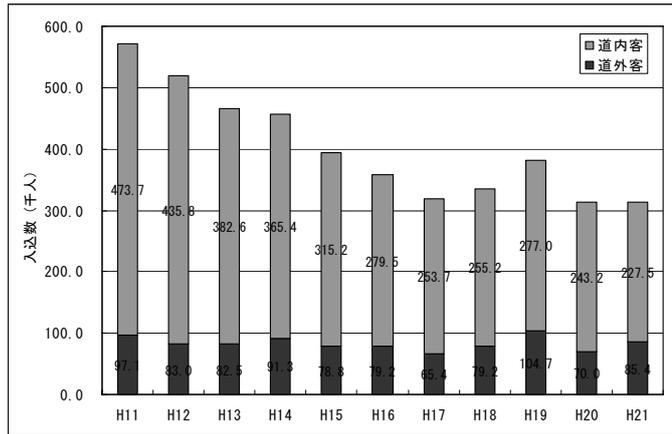


図 3-18 道内・道外客数の推移

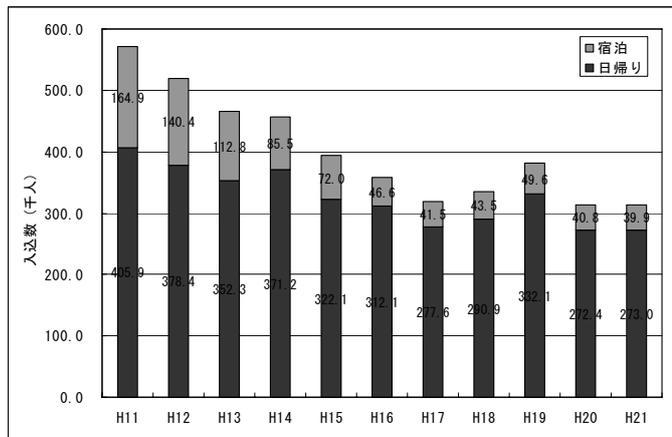


図 3-19 日帰り・宿泊客数の推移

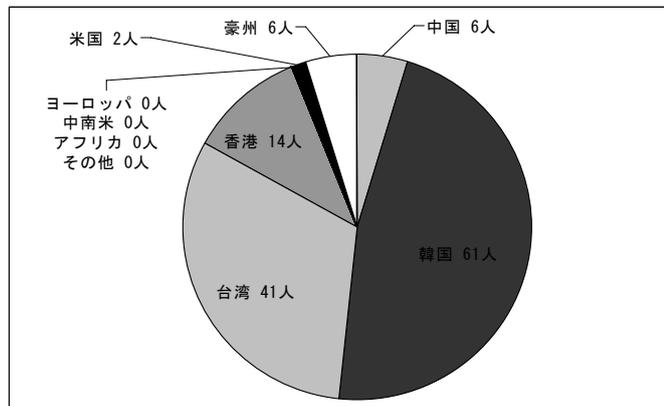
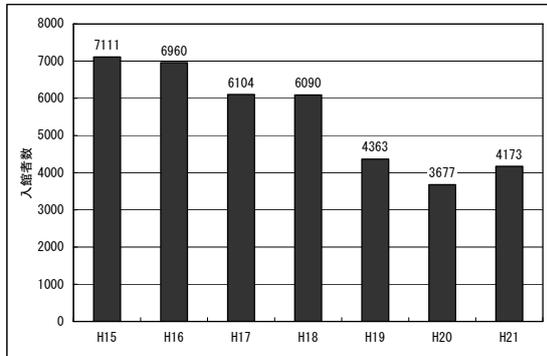


図 3-20 外国人宿泊者数 (平成 20 年度)

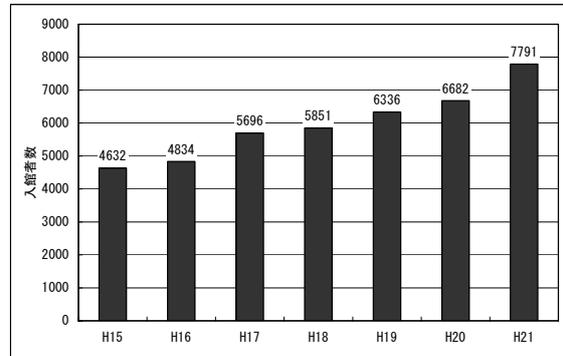
(4) 施設利用者数

東大雪地域の主要な施設等であるひがし大雪博物館、上士幌町鉄道資料館、糠平温泉文化ホール、糠平野営場の利用者数の推移及び糠平湖入釣者数の推移を図 3-21 に示す。

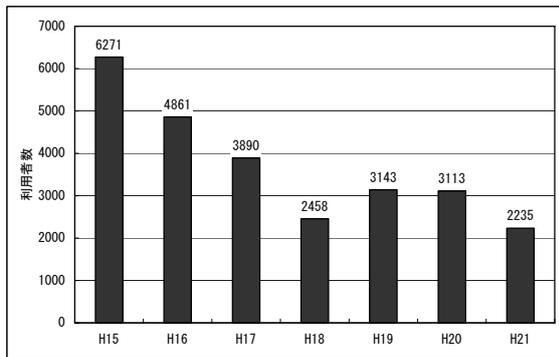
ひがし大雪博物館、糠平野営場、糠平温泉文化ホールの利用者数、糠平湖の釣利用者数は年々減少傾向にあり、唯一、鉄道資料館の利用者数は増加している。



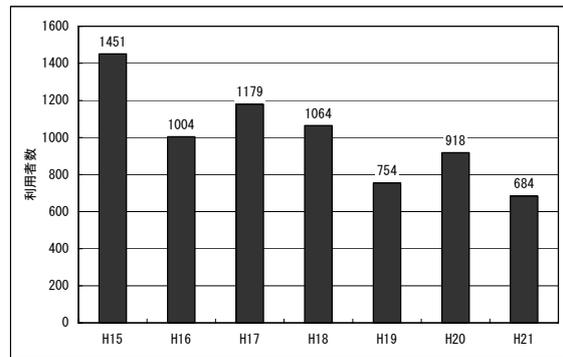
ひがし大雪博物館への入館者数



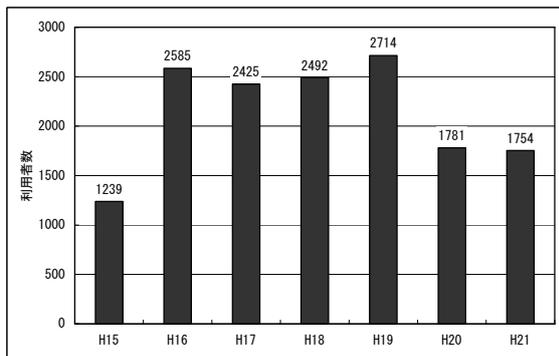
上士幌町鉄道資料館への入館者数



糠平温泉文化ホールの利用者数



糠平野営場の利用者数



糠平湖の釣利用者数

図 3-21 施設利用者数の推移

3-3-4. 自然観察ツアーや環境保全活動等の実施状況

東大雪地域では、行政、NPO、地域住民等さまざまな主体により、豊かな自然環境と歴史資源を活かした自然観察ツアー等地域の魅力を高める活動や森林の復元活動等が行われている。以下に東大雪地域の活動主体と自然観察ツアーや環境保全活動等の取り組みについて整理する。

東大雪地域で活動する主体を表 3-5 に示す。

表 3-5 東大雪地域の主な活動主体

NPO 法人 ひがし大雪自然ガイドセンター	地域の人々や大雪山を訪れる多くの人々まで幅広い層を対象に、自然体験・環境教育プログラム等を提供している。
NPO 法人 ひがし大雪アーチ橋友の会	旧国鉄士幌線跡地及びその周辺地域に残存するコンクリートアーチ橋群、線路跡その他の近代遺産の保存・利用・活用に関する事業等を行っている。
十勝三股森づくり 21	音更川上流域の森林復元に取り組んでいる。
大雪山国立公園パークボランティア	大雪山国立公園において、自然解説、美化清掃、動植物の調査、看板・歩道等の公園施設の維持管理などを行っている。
自然公園指導員	自然公園において、動植物の保護・美化清掃・事故の防止などについて、利用者の指導や情報収集を行っている。(環境省委嘱)
自然保護監視員	自然公園の保護管理や利用者の指導、公園施設の維持管理などを行っている。(北海道庁任命)
希少野生動植物監視員	「北海道希少動植物の保護に関する条例」で指定された動植物の生育・生息状況の調査確認や違法な捕獲・採取の監視を行っている。(北海道庁任命)
ひがし大雪博物館	大雪山国立公園を中心とした地域の自然や歴史の紹介、熱帯地域を中心とした世界の昆虫類の標本が展示されている。自然体験・環境教育プログラム等を行っている。
ひがし大雪博物館友の会	大雪山国立公園の自然に関する知識の啓発、向上を図るとともに、ひがし大雪博物館の発展に寄与することを目的として、研究会、講演会、講習会、談話会の開催等を行っている。
十勝自然保護協会	大雪山国立公園等十勝の自然環境保全に関わる調査活動・自然保護活動等に取り組んでいる。
環境省上士幌自然保護官事務所	上士幌町等との連携のもと、大雪山国立公園の普及啓発、自然観察会などを行っている。

また、東大雪地域で行われている自然観察ツアー等を表 3-6 に示す。

表 3-6 自然観察ツアー等の一例

ネイチャーウォッチング	東大雪地域の動植物等の自然観察。
産業遺産見学ツアー	旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋などの産業遺産の見学会。
登山ツアー	石狩連峰・ニペソツ山・ウベベサンケ山等の登山ツアー
星空観察会	大雪山ならではの圧倒的な星空を観察。
環境学習	小中学生、高校生を対象にした、釣り・アウトドアクッキング・自然観察・バードコール作り等の自然体験学習。
ワカサギ釣り	凍結した糠平湖でのワカサギ釣り。
スノーシュー・クロスカントリーツアー	スノーシューやクロスカントリースキーを使用した冬の東大雪地域の動植物等の自然観察。

3-4. 聞き取り及びワークショップの結果

3-4-1. 聞き取り調査結果概要

東大雪地域の利用状況や施設の概況等を把握するため、関係団体及び地元住民等に聞き取り調査を実施した。

(1) 聞き取り内容

● 利用状況

- 国立公園の豊かな自然だけでなく、鉄道跡等の産業遺産があることが東大雪地域の特色である。登山、自然探勝、紅葉、釣り、スキー・スノーシュー等のアウトドアの他、鉄道や土木構造物、写真、温泉等さまざまな目的を持つ人が訪れる。
- 飛行機とバスを組み合わせたマス観光は平成 19 年以降減少している。個人客は全体に占める割合は少ないものの増加している。外国人観光客はかなり少ない。
- 「知る人ぞ知る」観光地であり、個人客はタウシュベツ川橋梁をきっかけに訪れる人が多い。自然豊かな環境と国立公園内にある温泉郷、スキー等、利用者の目的・興味が絞られている。
- ぬかびら源泉郷には、メジャーな観光地に飽きて穴場を探している人が来ている。
- ぬかびら源泉郷を利用する登山客の 7 割程度はニペソツ山登山が目的である。
- 登山ガイド、自然ガイド、アーチ橋見学ツアー、早朝ツアー、星空観察会等を NPO が中心となって行っており、個人客や団体客が利用している。
- 自然探索ツアー等では開花時期にルピナスを目的にコースを変更する等、外来種が観光資源として認識されている面もある。
- 旧修理工場は歴史的な価値は低いと思われるが、外来種のルピナスとともに歴史を偲ばせる風景の一部として観光資源化している面もある。
- ツアーのテーマは、自然だけでは集客が難しく、鉄道遺産の紹介を組み合わせることが多くなっている。
- 鉄道遺産を巡るツアーでも、失われた自然があること等を説明し、自然について興味を持てるよう工夫している。
- 東大雪地域には以前、冬季の歩くスキーのコースが複数あったが現在は使われていない。整備すれば利用する人は多いと思われる。
- 「かみしほろアースレンジャー講座」という家族向けの企画を、ひがし大雪博物館と NPO 東大雪自然ガイドセンターの協力のもと行った。こうした連携が今後の財産となると認識している。

● 施設関連

- 登山客を対象とした高山植物、登山道等の情報を発信する場、パークボランティアや登山客が持つ有用な情報を集約し交換する場がない。
- 東大雪地域の玄関口であるぬかびら源泉郷に自然、観光、産業等地域の情報を集約し発信する機能を持った拠点施設が必要である。

- 普段は通過する車にとまり、人が集まって交流する場が必要である。
 - 同じタイプの施設が複数必要とならないよう、地域内で機能分担すべきである。
 - 野営場は施設が古く、「観光客向けのキャンプ場である」というアピールが少ない。
 - 鉄道資料館の来訪者は、アーチ橋を見たい方が目的を持って訪ねてくる人がほとんどであり、案内所的な機能も担っている。
 - むかびら源泉郷には廃屋が点在しており景観を阻害している。
- 自然環境保全等
- 地元でニペソツ山のトイレ管理・登山道の草刈りや枝払いを行っており、環境省とも連携して進めていきたい。
 - 十勝三股には外来植物が多くなってきており、外来植物の駆除を行うべきである。
 - 希少な種以外の種の保全も考慮してほしい。

3-4-2. ワークショップの結果概要

整備基本計画の参考意見とするため、環境省及び上士幌町の共催で関係団体・地域住民等によるワークショップを3回開催した。なお、十勝西部森林管理署及び北海道十勝総合振興局がオブザーバーとして参加した。ワークショップのテーマは以下のとおりである。

【大テーマ】

東大雪地域全体と各地区（糠平地区、十勝三股地区等）での望ましい活動形態と求められる機能

【小テーマ】

- [1] 東大雪地域での連携した望ましい活動形態について
- [2] 十勝三股地区の活動形態とそのゾーニングについて
- [3] 糠平地区の活動形態とそのゾーニングについて

(1) ワークショップ参加の案内

ワークショップの開催に当たり、地域に関係のある主な団体に直接参加を呼びかけるとともに、ワークショップに参加を希望する者に対してもプレスリリース及び北海道地方環境事務所ホームページにて広く参加の案内を行った。

(2) ワークショップ開催状況

ワークショップの開催状況を表3-7に示す。

表3-7 ワークショップ開催状況

	開催日	個別テーマ	参加者数
第1回	平成22年10月28日	◎東大雪地域の現状(ぬかびら源泉郷・十勝三股・連携) ◎東大雪地域の将来の望ましい機能(ぬかびら源泉郷・十勝三股・連携)	地域住民他 14名
第2回	平成22年11月30日	◎東大雪の玄関口であるぬかびら源泉郷の利活用について ◎十勝三股等の保全と利用について ◎東大雪にある資源の今後について	地域住民他 12名
第3回	平成22年12月21日	◎東大雪の玄関口であるぬかびら源泉郷で求められた役割を果たすためのゾーニングについて ◎十勝三股の特徴(眺望の良さ・空間の広がり・歴史)と植生復元のゾーニングについて	地域住民他 9名

第1回ワークショップのふりかえり | むかびら源泉郷

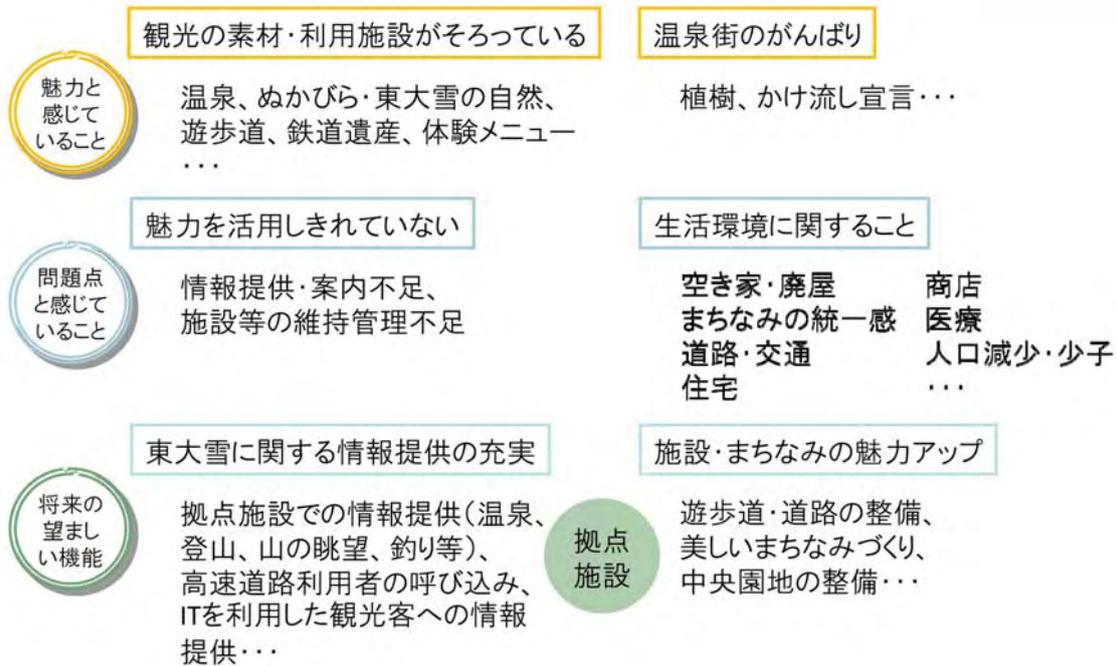


図 3-24 第1回ワークショップ意見の概要(3)

第1回ワークショップのふりかえり | 十勝三股

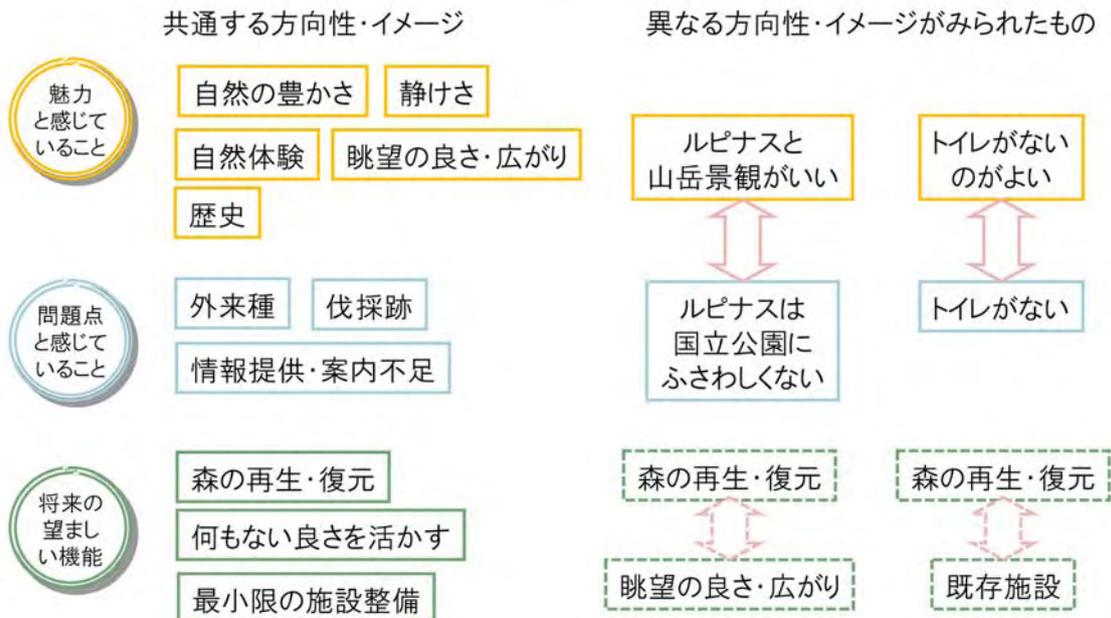


図 3-25 第1回ワークショップ意見の概要(4)

第1回ワークショップのふりかえり | 連携

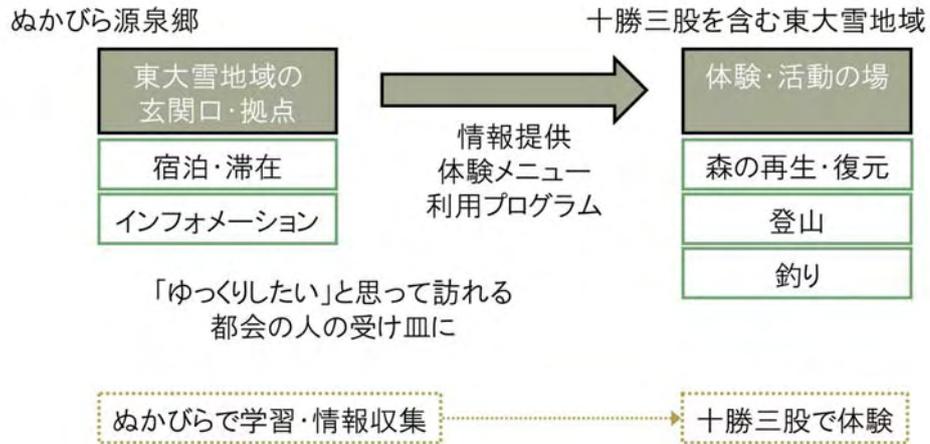


図 3-26 第1回ワークショップ意見の概要(5)

第2回ワークショップのふりかえり | 東大雪の玄関口であるぬかびら源泉郷の利活用について

○東大雪やぬかびら源泉郷を訪れる人に楽しんでもらうために地域で可能な取り組み（活動メニューの提供など）はどんなものが考えられるでしょうか？

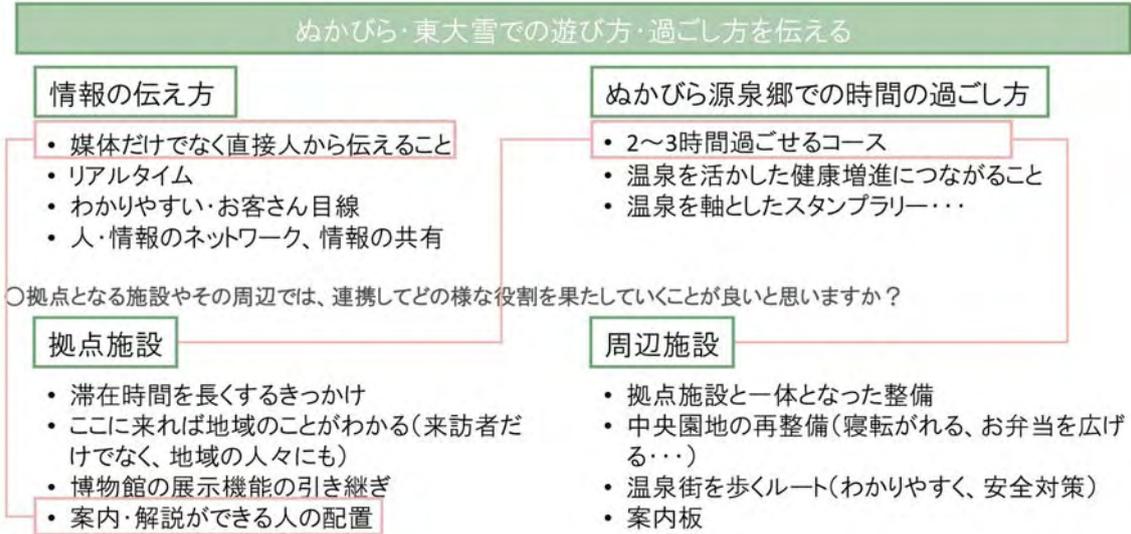


図 3-29 第 2 回ワークショップ意見の概要 (3)

第2回ワークショップのふりかえり | 十勝三股等の保全と利用について

○現在の十勝三股の特徴(眺望の良さ・空間の広がり・歴史)と植生の復元とのバランスをどのようにしたら良いでしょうか？

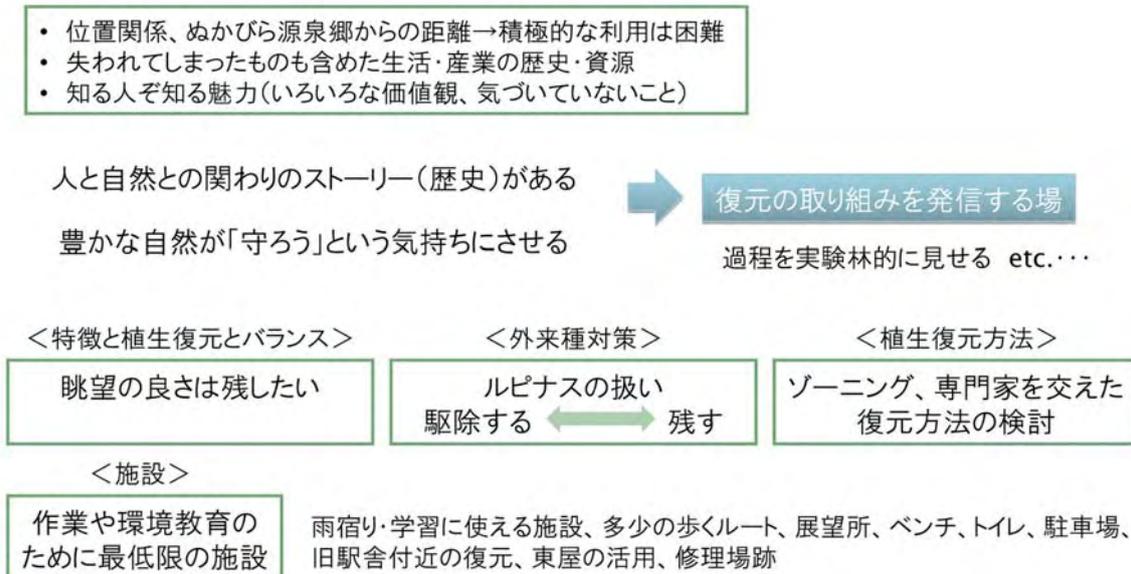


図 3-30 第 2 回ワークショップ意見の概要 (4)

東大雪の玄関口であるぬかびら源泉郷で求められた役割を果たすためのゾーニングについて (B班)

〇ぬかびらを歩くルートは？ルート上や街の中にどんな工夫があると楽しんでもらえる？どこに案内看板があったら効果的？

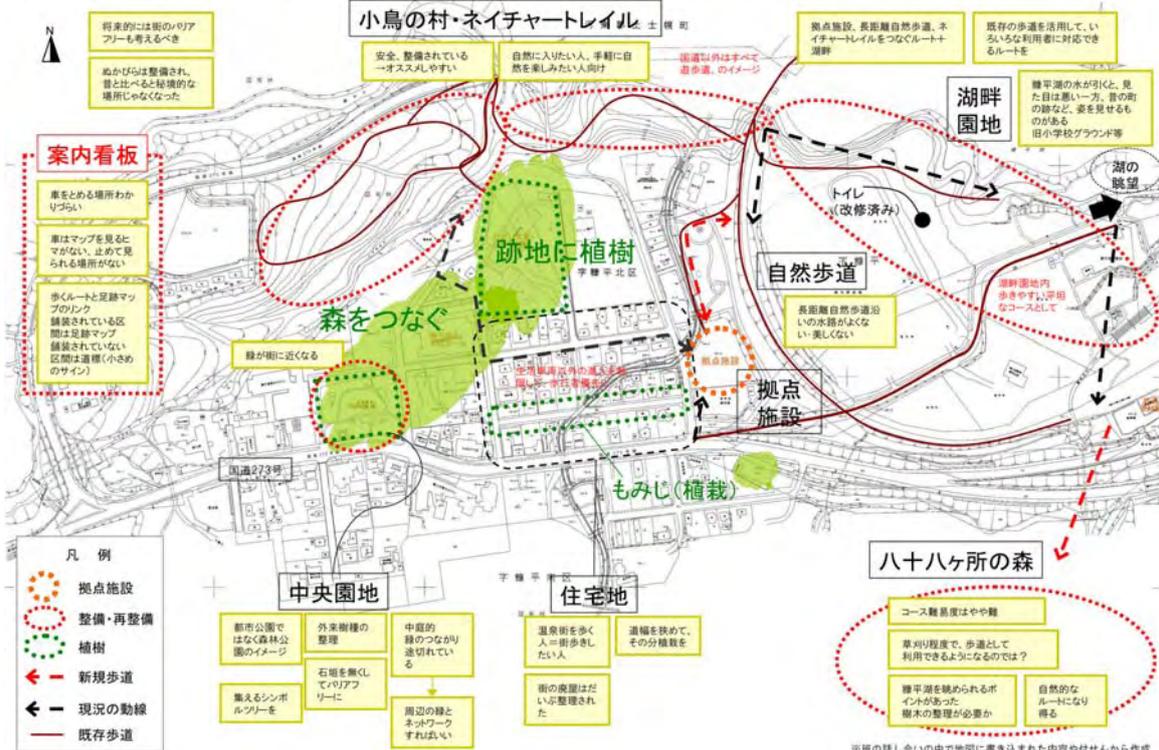


図 3-33 第 3 回ワークショップ意見の概要 (3)

十勝三股の特徴(眺望の良さ・空間の広がり・歴史)と植生復元のゾーニングについて (B班)

○眺望や歴史等を残しておきたい場所は? 植生復元の作業や環境学習をするために、三股に施設は必要か? 必要であれば、どこにあったら良いか?



図 3-34 第 3 回ワークショップ意見の概要(4)